

★ 麦類 赤かび病 情報

近年、麦類の赤かび病による被害粒混入基準が厳しくなりました。実需者から高い品質の麦生産が求められています。

麦類の赤かび病は、開花期から2週間以内に雨が多いと発病が多くなるので、予防防除に努めましょう。

1 小麦の生育状況

主稈出葉及び幼穂の発育状況からみた麦の生育は、3月中旬まで平年並～やや早めに推移していましたが、3月下旬の低温により鈍化しています。11月10日播きの農林61号の出穂期は4月27日であり、平年に比べ1日遅くなっています。

(農林センター作物部)

2 長期予報

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間は共に平年並と予想されています(大阪管区气象台、4月30日発表)。

3 防除上の注意事項

(1) 小麦の防除最適期は1回目：出穂後7～10日の開花期、2回目：1回目防除の7日後が目安です。本病の防除薬剤は予防効果が主であるため、散布時期が遅れないよう注意してください。

小麦の開花は出穂後の平均気温の積算値が概ね160℃前後で開花に至りますが、品種、播種時期、栽培条件で異なるため、出穂や開花状況をよく観察した上で防除適期を判断してください。

(2) 開花期から2週間以内に雨が多くと発病が多くなります。

(3) 六条大麦は特に発生しやすいので、注意が必要です。なお、大麦の防除最適期は1回目：穂揃期、2回目：1回目防除の7日後が目安です。

(4) ほ場の水はけが悪いと生育・出穂が不揃いとなり、防除効果が低下しやすいので、出穂前にはほ場の排水対策を実施しましょう。

(参考)

赤かび病菌は人畜に作用性の強いカビ毒(デオキシニバレノール、ニバレノール)をつくり出します。